

ウスバキトンボ

Pantala flavescens

種名



分類

昆虫綱トンボ目 トンボ科

俗称

和名は「薄羽黄」トンボで、形態的特徴に由来している。

形態的な
特徴

体長 45mm(腹長 30～34mm、後翅長 38～42mm)ほどで、雌雄ほぼ同じ大きさ。体色は透明感のあるオレンジ色で、腹部背面に細い黒条斑と後翅基部に橙色斑がある。雌雄による体色の差はほとんどないが、成熟すると雄はやや赤みを増す。複眼が大きい。幼虫は、体長 22～25mm(頭幅 6～7mm)ほどで、体色が淡黄褐色地に複雑な濃色斑がある肌目のなめらかなヤゴ。

分布

国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。全世界の亜熱帯、熱帯に広く分布し、全トンボ類中最も分布域が広いとされる。離島では南千島の択捉島、利尻島以下ほとんどの離島に分布する。

繁殖行動

成虫は八重山諸島などでは周年見られるが、本州では5月から9月頃、とくにお盆の頃に数多く現れる。幼虫はおもに夜間、挺水植物や水面から突きだした杭、護岸壁などに定位して羽化する。羽化した新成虫は水田や草原などの上空を飛翔し、ときには多数が群れ飛ぶ。成熟した雄は水面上を飛びながら縄張りを張り、交尾も終始飛びながらおこなう。交尾後、雌雄は連結したまま、あるいは雌が単独で打水産卵をする。卵や幼虫は成長が早く、温度が高ければ卵は5日以内で孵化し、幼虫は 25～30 日ほどで羽化、その後一週間ほどで交尾、産卵をする。本種は飛翔力にすぐれ、暖かい地方で早い時期に羽化したものが風によって北上し産卵を繰り返すという方法で、分布域を拡大していく。しかし寒さには弱く、南西諸島以外での越冬は確認されていない。

生息場所

おもに平地から丘陵地の池沼や水田のほか、学校のプール、貯水槽などの人工的な環境などにも生息する。幼虫は植物性沈積物の陰にかくれたり、水底の泥の上にならび生活している。約1ヵ月半で世代を繰り返すことから、一時的な水溜まりなどでも生息することができる。

生息環境への
配慮事項

短期間に世代を繰り返すことができ、毎年、南方から北へと分布を拡大していくことから、ほぼ日本全土に普遍的に生息する。

引用文献：http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html